

大幅下落している世界株式市場の見方

ポイント① 世界的な株式市場の下落

足元の世界の株式市場は大幅に下落しており、8月5日の株価を7月中に付けた高値と比べると、S&P500が▲6.0%、DAXが▲7.7%、上海総合指数が▲7.3%、TOPIX（東証株価指数）が▲5.4%となっております（※TOPIXは6日午前早朝の取引では▲8.2%程度まで下落しています）。

直接のきっかけは、米国が新たに中国からの輸入製品3,000億米ドル相当に対し10%の追加関税を発動すると発表したこと（対中追加関税第4弾）や、中国人民元が1米ドル＝7元を切って下落してきたことなどが考えられます。

ポイント② 今年の企業業績は概ね横ばい

一方、株式市場にとって最も重要な企業業績に目を転じると、例えば日米の足元の企業業績は概ね横ばいが予想されています。図1、2を見ると、日米株式市場（黒線）はEPS（1株当たり利益＝企業業績、水色線）に沿って上昇してきたことがわかりますが、足元ではEPSが横ばいとなっています。

過去にもEPSが横ばいとなった時期がありますが（赤点線枠）、そのような時には株式市場は様々な材料に揺さぶられて上下に乱高下してきました。例えば、2015～16年頃には「チャイナショック」と呼ばれる中国景気後退懸念で大きく揺さぶられました。

ポイント③ 今夏秋相場は仕込み場

今は様々な理由で企業業績が停滞していますが、2020年は再び増勢に転じることが予想されており、そうした局面では株式市場は再び上昇していくと期待しています。来年に向けて今夏秋相場は仕込み場となるのではないかと考えています。

図1：米国株式市場と企業業績の推移

期間：2009年7月～2019年8月、月次（8月は5日時点）

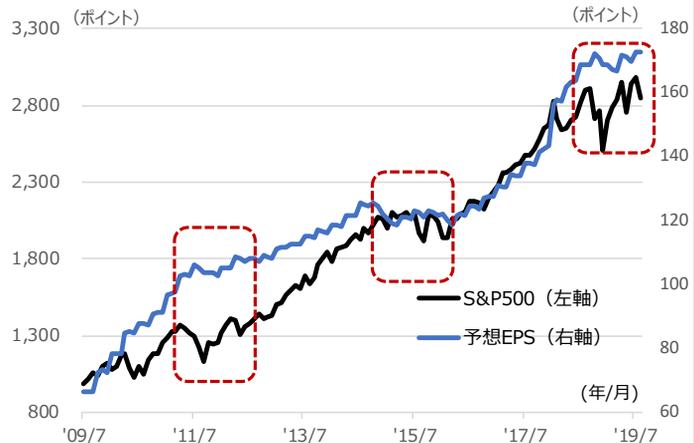
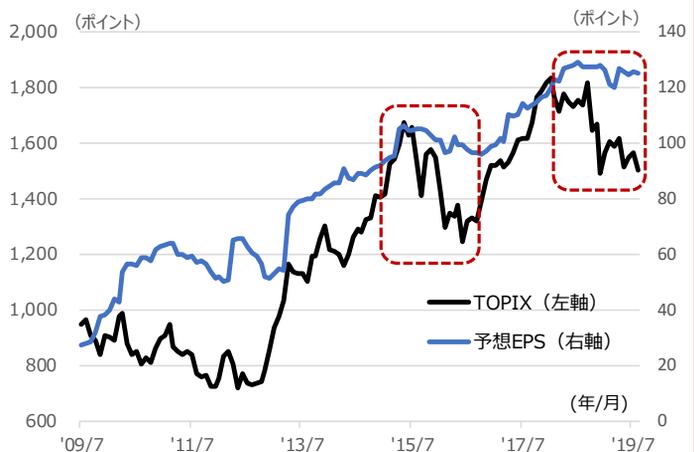


図2：日本株式市場と企業業績の推移

期間：2009年7月～2019年8月、月次（8月は5日時点）



（出所）Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

※業績予想はBloomberg予想による。

重要
イベント

8月27日 米消費者信頼感指数（8月）
9月1日 対中追加関税第4弾発動
9月18日 米金融政策発表

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。